事例No.	1262
公表年度	R2
団体の属性	町村
団体名	島根県邑南町

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

「課題解決×（旅＋暮らし）＝あたらしい関係」事業

出典

令和２年度「関係人口創出・拡大事業」モデル事業調査報告書

(18) 島根県邑南町

事業名：「課題解決×（旅＋暮らし）＝あたらしい関係」事業

取組の概要

関係人口創出による地域の課題解決に向けた「学び」と「実践」の場として、担い手育成講座「新しい関係の学校」を開設し、プロジェクトの立案から実現までを支援。

主な成果

12 組 13 人による「課題解決×自己実現」プロジェクトが立ち上がり、地域の課題解決を担う人材発掘が進展。その成果を生かして、プログラム設計や支援のポイント等のノウハウをまとめた「関係人口を活かす担い手育成講座」運営マニュアルを作成。

①事業の背景・目標

1) 関係人口によって解決・改善を図りたい地域課題

・平成 30 年度、令和元年度事業を通じて得た関係人口創出ノウハウを全町に展開し、関係人口を地域ごと、課題ごとに、同時多発的に、継続的に創出させる仕組みと体制を構築することで、全町的に「新しい人の流れ」を創り出す。

2) 概ね５年後の地域の理想の姿

・地域の伝統や文化、知恵、景観を持続させていくことが困難、あるいは、近い将来困難になることが予想される中、これらの継承に向けた意欲を持つ地域住民が、関係人口と共に行動し、守っていくことによって、「だれでも地域づくりの主役」となれるという意識の醸成・定着を図る。

3) これまでに取り組んできた関係人口関連施策の実施状況・成果

・平成 30 年度には廃線後の「三江線」跡地の活用と鉄道ファン、令和元年度には空き家の再生と DIY 愛好家、といった組み合わせで関係人口を創出。「地域に根差し、住民が解決を望んでいる課題の設定」と「課題に高い関心を持ち、関与を望む関係人口」の組み合わせに成功した。

・このような成果を踏まえ、「里山の景観」「暮らしの知恵」といった地域の価値を、地域外の人々を巻き込みながら育てていくため「観光やめます関係はじめます」を掲げた町観光戦略を策定した。

4) 今年度事業の目標

目標	事業を通じて蓄積したノウハウを、地域の限定的な動きに終わらせず、全町的に地域への新しい人の流れを生み出す展開につなげる。
成果指標	住民と関係人口の協働による課題解決プロジェクトの実施
目標値 （基準値）	事業申請時の目標値：５件（基準値：０件）

②事業実施体制

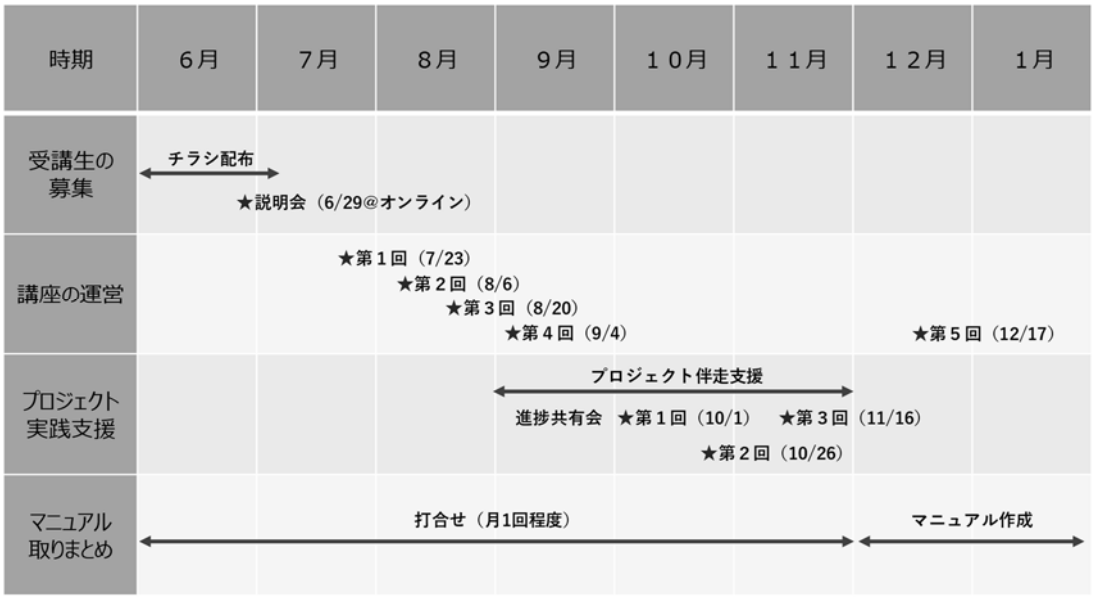
区分	団体・組織名称	役割
行政	邑南町商工観光課	全体統括、講座の伴走支援
中間支援組織	（一社）邑南町観光協会	情報発信サポート
実践者	講座受講生（12 組 13 名）	プロジェクト立案・試行
その他	株式会社エブリプラン	事業計画、講座企画運営、効果検証
その他	株式会社 MYTURN	マニュアル制作
その他	ローカルジャーナリスト 田中 輝美氏	アドバイザー



③ターゲット設定とアプローチ方法

ターゲット層	アプローチ（情報発信）方法	期待する役割・関わり方
自然体験に関心のある広島在住のファミリー層	SNS（Instagram 等）、チラシの配布、受講生からの声掛け	・　地元で栽培している黒豆の収穫作業への協力 ・　黒豆を使ったスイーツレシピ開発への協力
DIY の技能習得や実践の場を求める DIY 愛好家	SNS（Facebook 等）、DIY 愛好家コミュニティへの声掛け	・　DIY リノベーションによる空き家の改修作業への協力
伝統芸能「石見神楽」のファン・関心層	SNS（YouTube 等）	・　神楽団の存続に向けた公演のオンライン配信への協力 ・　収益性向上、情報発信の手段の検討

④事業スケジュール



⑤取組の内容

【取組1　住民・受講希望者向けオンライン説明会】

目的

・邑南町が取り組む「新しい観光」の理解浸透を図り、関係人口が拓く地域の可能性を発信する。「新しい観光の学校」プロジェクトの参加者、共感者、支援者を得る。

日時

・令和２年６月 29 日（月）19：00～20：00

方法

・オンライン（Zoom ウェビナー）

参加対象者

・邑南町内で、地域内外の仲間を巻き込みながら、挑戦したいことがある個人・団体

参加者

・29 名

プログラム

・事業の背景や町としての思い、関係人口の考え方などを町内の事例を交えて解説。その後、講座の内容やサポート体制などを紹介。

時刻	プログラム	狙い・内容
19：00	開会・挨拶	
19：03	自己紹介	事務局から一言ずつ挨拶。
19：10	新しい観光とは？	事業の背景、観光ビジョンに込めた思いや目指す姿を紹介。
19：20	なぜ今関係人口なのか？	「関係人口」の考え方、なぜ「観光をやめて関係をはじめるのか」を羽須美地域での事例を交えて解説。
19：40	カリキュラム紹介	講座の内容やサポート体制などを紹介。チャットで質疑応答。
20：00	閉会	



【取組2　講座「新しい観光の学校」の運営】

目的

・「課題解決×自己実現」プロジェクトの立案に向けたノウハウや仲間づくりの場を提供する。

対象者

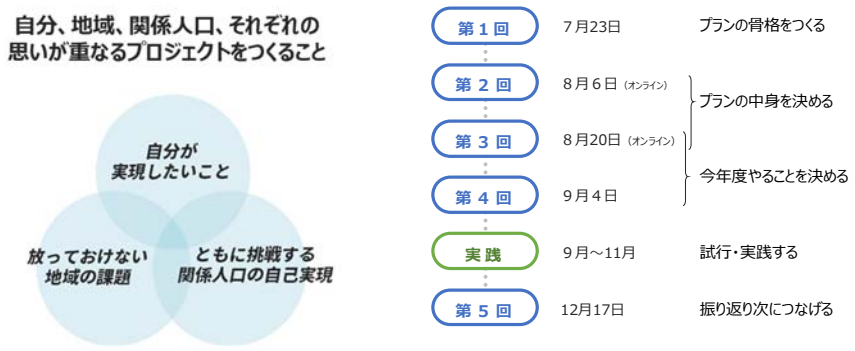
・受講生 12 組 13 人（邑南町内で、地域内外の仲間とともに「課題解決×自己実現」に挑戦したい個人・団体）（プログラム）

開催概要

・関係人口創出による地域課題解決プロジェクト(以下、プロジェクト)の立案を支援。受講生の思いや検討状況に応じて、プロジェクトの実現に向けた情報提供や助言を行った。

目指す姿

・自分、地域、関係人口、それぞれの思いが重なるプロジェクトをつくること。



【取組3　プロジェクトの実践支援】

目的

・講座を通じて立案したプロジェクトを試行し、「課題解決×自己実現」に向けた仲間や知見を得る。

対象者

・受講生 12 組（地域内で、地域内外の仲間を巻き込みながら、挑戦したいことがある個人・団体）

内容

・受講生が地域内外の仲間とともに取り組むプロジェクトの試行・実践を伴走支援。

✓全３回のオンライン報告・相談会やグループ LINE を通じて、受講生同士の情報交換やコミュニケーションの機会を用意した。各受講生の思いや検討状況に応じて、ゴールの具体化、課題・ターゲットの設定、受入体制の検討、広報などのコツを助言した。

✓プロジェクトはあくまでも、受講生自身のものである。伴走者が受講生の状況を全て理解することはできない。そのため、アドバイザーは、課題解決をするアドバイザーではなく、気づきを与える「伴走者」として関わった。

＜アドバイザーによる伴走のコツ＞



コツ１　相手に寄り添う：「最近どうですか？今不安に思っていることはありますか？」
コツ２　時には立ち止まる：「今後、どうしていきたいですか？」
コツ３　全力で肯定：「いいですね！おもしろいですね！」
コツ４　チームで伴走する

成果

・12 のプロジェクトが立ち上がり、それぞれのゴールに向けたはじめの一歩に取り組んだ。

（12 のプロジェクトの概要）

１．地域に眠る資源を活かして循環のある小さな暮らしをつくる「テロワールハウス」
２．DIY による拠点整備を通じたコイの養殖文化の発信・仲間づくり
３．廃屋から再利用可能な資材を、家のストーリーとともに引き継ぐ「廃屋の臓木移植」
４．都会と里山が互いに支え合う場をつくる「みんなのふるさと道場」
５．特産品「黒豆茶」の収穫・商品開発の仲間づくり
６．都市と地域がつながる里山体験企画
７．地元野菜を使った新商品開発
８．地元高校生が帰りたい場所・会いたい人に出会うきっかけづくり
９．地元高校生・大学生と地域との連携拠点づくり
10．コロナ禍で苦境に立つ「神楽団」の存続に向けたオンライン公演の開催
11．地域の魅力を伝え、人の流れを生み出すためのフリーペーパーの制作
12．高齢者が“ふらっと”“ちょこっと”立ち寄れる「むらの保健室」

＜プロジェクト事例＞

５．特産品「黒豆茶」の収穫・商品開発の仲間づくり

ひわのにわプロジェクト
～黒豆畑の収穫を手伝ってくれん？～

やってみたこと

【黒豆の収穫作業/黒豆茶袋詰め】
日　時：2020年11月8日、28日
場　所：邑南町日和地区
（黒豆生産者さんの畑＆日和公民館）
参加者：２日間　計27名（14名＋13名）
広島友人5家族　大人10人/子ども９人（2～7歳）
邑南町在住の方 8名（観光の学校の参加者さんも）
お手伝い：フレッシュ日和のお母さん達9名

①11月8日（日）10：00～16：00
収穫⇒天日干し
・生産者さんに教わって、収穫した黒豆をワラで束ねる作業
・２グループに分かれて４つの畑を手分けして収穫
・最後に天日干しのために一ヵ所に集める

②11月28日（土）10：00～13：30
脱穀した黒豆を選別⇒七輪で煎る⇒袋詰め作業
・8日に収穫して約１週間天日干しして脱穀した黒豆を傷ありや弾けたものを選別
・選別した豆を七輪でしっかり煎る
・煎り済みの豆を軽量してお茶用の袋詰め

＜昼食＞
日和産の新米・豚汁・和え物・漬物
（おやつに“きびだんごのかぼちゃ汁粉”）

振り返ってみて

・収穫作業は体力仕事。一気にやるなら短期集中で人数を増やして分散させた方が一人の負担が減らせるかな。
・収穫作業は作業メインになるので、地域の人と話したりする時間がもっとあってもよかった。
・黒豆の選別や袋詰めなど、小さな子供たちの方が得意な作業もあったので、作業ごとで募集対象を変えてもいいのかも。
・すべては天候、黒豆の成長次第。日程や収穫量など含めて、単発ではなくのんびりそれに合わせて参加してもらう形がいいのかも。

小さな教訓

・最初の段階で、関係人口とはなにか、どんな参加者に来てほしいかの目的共有はしっかりした方がいい。（募集要項やチラシ、地域の方との共有）
・参加者の人には色々手伝ってもらうように率先して声をかける。（お客さまではないという意識を持つ）
・やってみないとわからないことだらけ。

次に向けて

・自分自身の黒豆栽培に関する経験を増やしたい。⇒一年通して黒豆作りに挑戦してみる。
・単発のイベントではなく定期的に（でも気軽に）手伝いに来てもらえるようなスタイルにしたい。
・この関わりで出会った地域の方や参加者さんとの関係を続けていきたい。

【11月28日(土) 黒豆選別⇒煎り⇒袋詰め】


↑作業内容の説明中


↑黒豆の選別 キッズ大活躍！


↑黒豆の煎り具合をチェック


↑七輪で煎ってます


↑黒豆生産者さんによる昼食作り




↑羽釜ごはん!!




↑黒豆茶用に計量･袋詰め(ここでもキッズ大活躍!!)↑


↑最後に記念撮影📷

【参加してみての感想】

・作業を通して地域の方と交流できて、大人も学びがあって楽しかった。
・子連れで参加できたのが何より嬉しかった(外でのイベントではなかなか難しい)。
・地域の方が温かく迎えてくれてほっとしました。
・縄の結び方など実践的なことも学べてよかった。
・昼食がとても美味しく、地域の話を直接聞きながら作業や食事を共に出来てよかった。
・雰囲気があたたかいイベントでした。
・広島ではできない、貴重な体験を子供たちにさせることができて嬉しかった。

【取組4 ノウハウのマニュアル化】

目的

・本事業の成果のほか、過去の邑南町の関係人口施策の成果やノウハウをとりまとめ、令和３年度以降の取組に生かすとともに、他自治体にも共有することで、関係人口の確保・拡大に貢献する。

成果

・自治体が関係人口施策に取り組むにあたっての地域ビジョンの確認、プログラムの設計や伴走支援のポイント等を「関係人口を活かす担い手育成講座 自治体向け運営マニュアル」として取りまとめた。

⑥事業成果

1) 取組ごとの成果発現プロセス

取組名		担い手の発掘・育成	講座の運営・実践支援
取組の結果（アウトプット）		関係人口創出による課題解決を目指す担い手育成講座「新しい観光の学校」を開催。	受講生12組（13人）がプロジェクトを立案・実践。
取組の成果（アウトカム）	関係の創出・深化に関する成果	関係人口の概念を住民に広く発信した。受講生に対し、課題解決に向けたノウハウを伝達した。	各プロジェクトが、住民と関係人口の協働により始動した。
	地域にもたらされた成果	• 新たな担い手（受講生）の発掘 • 担い手同士の連携 • 関係人口に対する理解促進	• 町外出身の受講生と町民との接点を創出（新たなつながり、関係の深化） • DIYに着目した課題解決手法への着目
今年度事業の目標達成状況		住民と関係人口の協働による課題解決プロジェクトの実施 12件／5件（当初目標値の240%）	

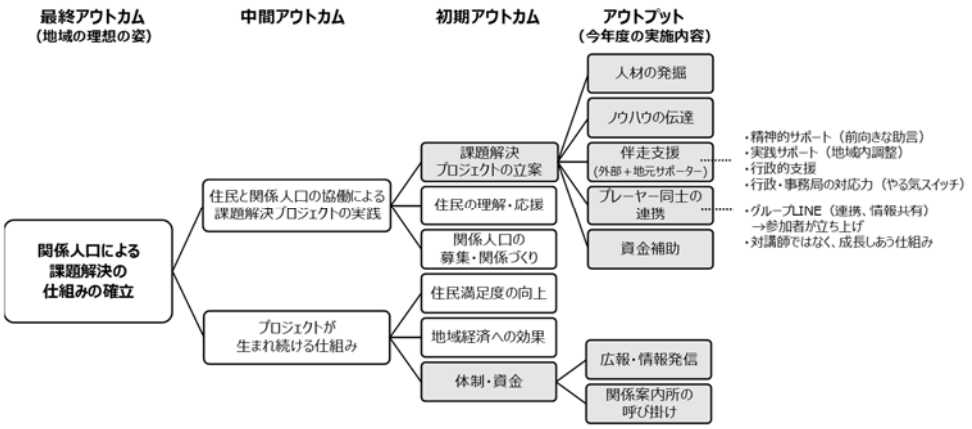
2) 本事業全体を通じた成果

＜関係人口を活かす担い手育成の仕組みづくり＞

・当初の想定（５組）を大幅に上回る町内外在住の 12 組（13 人）が「新しい観光の学校」を受講し、地域課題の解決を目的とした 12 のプロジェクトが立ち上がり、地域の課題解決を担う人材発掘が進んだ。

・受講生同士のコミュニケーションの機会を積極的に用意したことで、互いの連携・協力が生まれ、受講生の満足度につながるとともに、複数のプロジェクトの推進力となり、今後の展開可能性を広げる基盤になった。

・ゴールの具体化や地域内の関係づくりに時間を割き、期間内に具体的な関係人口の確保に至らなかったプロジェクトも存在したものの、受講生のペースに合わせ、将来的な地域の課題解決に向けたはじめの一歩を支援することができた。



＜ノウハウのマニュアル化＞

・講座「新しい観光の学校」を、関係人口創出に継続的に取り組んでいくための人材育成の場と位置づけ、講座運営のノウハウを整理し、マニュアルとして取りまとめた。これをもとに、次年度は「新しい観光の学校」２期目の開講を予定するほか、他の自治体等にも共有することで、関係人口の創出・深化に貢献したい。

＜DIY リノベーションによる空き家再生の基盤づくり＞

・受講生 12 組のうち４組が、町内で急増する空き家問題に着目し、DIY による地域の課題解決をテーマとしたプロジェクトを立ち上げた。
・受講生のつながり（小チーム）がさらに新たな人を呼ぶ流れが生まれたことは大きな成果。とりわけ「DIY」をテーマとしたプロジェクトが互いに関わり合うことで、本町が取り組む DIY リノベーションによる地域再生の基盤づくりが進展した。

⑦事業を通じた課題・気づき等

1) 事業の目標設定と達成に関する課題・気づき

・個の課題解決プロジェクトを創出するプロセスはある程度整理できるものの、それが生まれ続けるためのまち全体の構造・仕組みをどう描くかが最大の課題。あわせて、いかに関係人口創出のロジックに乗せて定量・定性化、フロー化するか、どのように計測するかについても試行錯誤が必要。

2) 事業の実施体制に関する課題・気づき

・地方では、自治体という行政機関の存在は大きく、それはつまり、職員の存在の大きさにもつながる。当事者ではない視点から物事を見てアドバイスをする、また、二者の間に立ってフラットな関係構築を意識的にサポートする第三者が存在することで、前向きなコミュニケーションが生まれ、結果的に地域のプロジェクトが進みやすくなるように感じた。

3) ターゲット設定や募集・情報発信等に関する課題・気づき

・関係人口の創出は手段であり、地域の持続性を高めることが目的である。
・「地域づくり＋外部人材の関わり＝地域のイメージアップ」の仕掛けを、行政や地域が総合的にマネジメントして、「地域に観光客も来ている」「関係人口も増えている」「地域の担い手も元気になっている」という理想の状態をどう作り出すかを、引き続き、検討する必要がある。

4) 各取組の実施・運営に関する課題・気づき

・事務局として、熱意をもってプロジェクトを行う受講生の思いに寄り添いながら、背中を押すとともに、複数いる事務局員が複数の視点でアドバイスを行うことが重要。
・プロジェクトの内容を受講生と事務局で煮詰めていく中で、受講生と地域人材が協働して実践するプロジェクトや受講生同士による新たなプロジェクトが生まれた。実践を通じて、新たな仲間とネットワークが生まれ、関係人口が広がっていく様子を間近で感じた。

⑧今後の関係人口創出・拡大に向けた展望

・「地域の課題」という関係人口と地域住民の「関わりしろ」が人と人の関わりと信頼、情報のネットワークと関係人口の輪の広がりを生むことを学んだ。今後とも、関係人口と地域住民の「関わりしろ」を見える化する手段のひとつとして「新しい観光の学校」に取り組んでいきたい。
・今年度の成果を踏まえ、担い手育成講座「新しい観光の学校」２期目を運営予定。１期生（今年度の受講生）によるサポート・協力の仕掛けを盛り込むことで、地域の課題解決の担い手が育ち、つながる仕組みを構築したい。